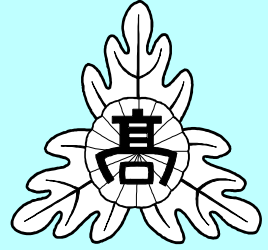


市来農芸 だより



卒業式

三月一日(水)、第六十九回目の卒業式の日を迎えました。

多数の来賓や保護者の方々に出席していただき、

農業経営科二十五名、
生物工学科二十六名、
生活科十八名、

合計六十九名の三年生が
本校から卒業します。

卒業生へ贈る言葉

巣立ちゆく君たちへ

企業の新人教育でよく使われる話ですが、「じんさい」には四つの漢字が当てられるそうです。

- 「人材」：普通の人
 - 「人罪」：お荷物な人
 - 「人在」：いるだけの人
 - 「人財」：大事にしたい人
- 必要な人

どの「じんさい」を企業が求めているかは、あえて言うま

第 171 号

平成 29 年 3 月 1 日
編集・発行
市来農芸高校広報係
いちき串木野市湊町 160
Tel (0996) 36-2341
発行責任者
校長 本村 信一

でもありませんね。

この四つの「じんさい」の話は、企業に限らず、人生や社会生活にも当てはめることができると思います。これから先の長い人生、たくさんの人との出会いが待っています。すべての人にとつて、とは言いませんが。君たち一人ひとりが、それぞれの大事な人から「人財」だと思ってもらえるような生き方をしてもらいたいと心から願っています。

チバリヨ チバリヨ

でもチバリヨすぎんよ

甘えリヨ 甘えリヨ

でも甘えすぎんよ

かつての教え子であるシンガーソングライターが作詞・作曲した「チバリヨ(がんばれよ)」という歌詞の一曲です。この歌詞をはなむけとして、君たちを送り出したと思います。

それでは、六十九名の卒業生諸君。それぞれの未来へ「行つてらっしゃい！」
三学年主任 池田 貴之

自分の姿を想像しよう

想像してみてください。

就職して五年目に、上司から言われました。

「今年入ってきた新入社員に色々教えてほしい」

積極的な新人がいます。あなたはどんな風に、声をかけますか・・・？

就職の人はもうすぐ、進学の人多数先には新社会人として、先輩から色々教えてもらおうでしょう。

あなたの姿勢で、周囲の反応は変わってきます。
「今年の新人は良いよ！」
きっとそんな風に言ってもらえるみなさんであると信じています。

卒業おめでとう。
進路指導部 伊地知 隆

これからは人間力

卒業にあたり、一つのことだけを書きます。

これからは人間力が勝負です。卒業で、すべてがリセットされています。つまり、次の学校や職場では、今までのすべてが白紙にされているのです。皆さんの進んだ先

28年度卒業生の進路状況 29.2.28 現在

進路先 \ 学科	農業 経営	生物 工学	生活	合計
大学	0	5	0	5
短期大学	1	1	2	4
県立農大	7	2	0	9
専門学校等	1	4	3	8
進学合計	9	12	5	26
県内就職	10	8	8	26
県外就職	4	6	4	14
就職合計	14	14	12	40
その他	2	0	1	3
合計	25	26	18	69

四月にスタートするとき、すべてがまっさらになっています。そして、新たに記録(記憶)が始まるのです。これは大きなチャンスです。これからは、別のかたちで学んだり、覚えたり、資格を取ったりが始まりますが、それ以上にものを言うのが「人間力」です。人間としての幅といったもよいでしょう。休日にも当番で登校した皆さんには、他校卒業生にはないその潜在力がすでに備わっています。自信を持って前進してください。期待しています。

進路指導部就職支援員

東 均

卒業生のみなさんのために、三人の先生方から激励の言葉をいただきました。今までも、そしてこれからも、多くの人の気持ちに支えられていくことを忘れたいです。



営農の門出を 励ます会

二月十三日(月)、農業関係への進学・就職を決定した三年生十六名を対象に、「営農の門出を励ます会」が開催されました。

当日は、いちき串木野市長、田畑誠一様、日置市副市長、農業関係行政機関他、日置地区農業青年クラブより来賓の出席がありました。

農業経営科 堂崎慶次郎君

溝端響君

生物工学科 濱田一期君

和田涼暉君

以上四名が代表として抱負を発表し、来賓の方々からの言葉や、一・二年生からの励ましの拍手をもらい、気持ちを新たにしていきました。



南日本新聞からの 掲載記事の紹介

命の重み思い知った

1年 岩川 亜沙美

「命をわざわざ奪って食べてまで生きる価値ある今日を、僕は生きているだろうか」。大岩根尚さんの「食べるといふこと」の中の一文です。普段の食事について、改めて考えるきっかけになりました。

数年前、父が鶏をさばこうとしていました。私も最初は興味があり見ようと思いましたが、しかし作業する時、見る事ができませんでした。

学校では1年生が鶏を飼育しています。私は鶏舎にも入れず、触れることもできません。一方で、鶏肉も卵も大好きです。

生活の中でも相当な量の卵と肉を目にします。つまり、たくさん命が奪われて私たちの口に運ばれているということだと思います。

人が生きていくには、仕方がないことだと思えます。だから、私は育てている間だけでも、精いっぱい愛情を込めて世話したいと思えます。

記事を読んで、改めて命の大切さに気付き、感謝する気持ちを持つことができました。だから、食事の時はあいさつに感謝の気持ちを込めたいです。

(平成 29 年 1 月 18 日掲載)

命がもつたいない

1年 松本 凜

鶏が死んでいた。いじめられていたのか、羽があまりなかった。入学して間もないころ、用があつて鶏舎に行つたときのことだ。

待ち時間に鶏を見ていたら、あきらかに1羽だけ動かない鶏がいた。先生に「あれなんで動かないんですか」と尋ねてみた。先生は「死んでるね。ポイラーに入れ」と言つたので、「無理、無理です」と言い返した。

すると、先生は、死んだ鶏をポイラーに入れた。なんだか悲しかった。たぶん、その鶏も1ヵ月前は元気に卵を産んでいたのだ。命とはこんなに早く終わってしまうものなのだと思つた。

学校の鶏は卵用だから肉にはならないが、肉用の鶏は生まれて何ヵ月かしたら出荷される。そうして肉になつた鶏は、人間のもとに届けられる。

多くの人がきれいに食べるけれど、残す人もいる。かわいそうだと思つた。私たちの学校は、1年生全員が寮に入らなければならない。食事と一緒に肉や魚、野菜などを残しているのを見ると、「命がもつたいない」と思う。食事は残さないように心がけたい。

(平成 29 年 2 月 1 日掲載)

作家あさのあつきさん来校

2月8日水曜日、作家のあさのあつきさんと徳間書店の国田さんの2名が来校されました。

あさのあつきさんは、『バッテリー』や『グリーン・グリーン』等多くの本を執筆され、映画化されたものもある有名な作家です。現在、農業高校を舞台にした本の執筆に当たっており、実際の授業や実習などの様子を取材したいとのこと。来校されました。とても気さくな優しい方で、生徒達はとても喜んでいました。夜は双葉寮の入寮生達に講話までしていただきました。また、サイン入り著書を4冊とメッセージ入りのサイン色紙を寄贈してくださいました。本校での取材を参考にした次作が楽しみです。



職員コラム

春と聞いて何を思うだろう。新緑は寒さに耐えて芽吹き始める時期である。また人生の中では、別れと出会いの時期でもある。十数年前に本

校を卒業して1年前に母校に帰ってきた。学校のいろいろな変化にとまどいながら、歳月ばかりが過ぎていった1年だった。

学生の頃、よく教師に「今のうちに勉強をがんばらな」と後々苦労するぞ」といわれたのを近頃よく思い出す。当時は何をと思いつながら、必要になつたら勉強すればと思つていたが社会人になつて意味がよく理解できた。

なにか勉強をと思つてもなかなか頭にはいつてこない。また仕事とプライベートに追われ時間がとれないという現実が待っていた。

ところで3年生は、卒業して各々自分の選んだ道に進んでいく。現1・2年生はそれぞれ進級して上級生になる。私自身本校に入学して、3年間実習をこなして今の自分があると思う。生徒に思つてもらいたいのは、「市来農芸高校」を卒業したから並大抵のことには負けないという、「根性と精神」をもつてほしい。そのためにも、現在しっかりとした、勉強と実習にしっかりと取り組む必要がある。そうすればどんなに大きな壁も乗り越えていけると思う。

生物工学科

竹之内 文也